



TITLE:

京大東アジアセンターニューズレ ター 第496号

AUTHOR(S):

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター

CITATION:

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター. 京大東アジアセン
ターニューズレター 第496号. 京大東アジアセンターニューズレター
2013, 496

ISSUE DATE:

2013-12-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179543>

RIGHT:

目次

- 東アジア人材採用のための会社説明会のお知らせ
- 自動車シンポジウムのお知らせ
- 講演会のお知らせ
- 中国経済研究会のお知らせ
- カンボジア情報検証 : 2013年11月
- 上海街角インタビュー ⑧
- 【中国経済最新統計】

東アジア人材採用のための会社説明会

日時:2013 年 12 月 4 日(水) 11 時～15 時

会場:みずほホール(法経東館地下)

この度,京都大学東アジア経済研究センターでは,「東アジア人材」採用のための会社説明会を 2013 年 12 月 4 日、京都大学経済学部みずほホールにて開催することとなりました。「東アジア人材」とは,近年急速に経済成長を果たしている東アジア地域において活躍できる人材となる可能性のある学生(院生)を意味しております。こうした東アジア人材の採用を目的として,東アジア経済研究センター協力会の法人会員に会社説明を本学で行っていただきます。

1. 参加資格

- ①2014 年 3 月に大学(または大学院)を卒業(修了)見込みの方
- ②東アジア地域出身の留学生、または東アジア地域に強い関心があり、現地語を理解する能力のある日本人等

2. 参加方法

- ①参加希望者は、下記の申込先に、事前に所属、氏名を連絡してください。ただし事前連絡のない場合でも参加は可能です。
- ②希望する会社(複数可能)の説明会が始まる 5 分前までに会場横の廊下に集合ください。
- ③履歴書は、参加を希望する会社数分を御用意ください。

3. 募集要項

<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~shanghai/131204%20setsumeikai/131204%20setsumeikai.html>

各社の募集要項は経済学部ホームページ内の「東アジア経済研究センター」に各社の募集要項を掲示しています。

4. 申込先

京都大学大学院経済学研究科附属東アジア経済研究センター TEL075-753-3469

E-mail shanghai@econ.kyoto-u.ac.jp

月日	会社名
2013 年 12 月 4 日(水) 11 時～15 時	三井住友海上火災保険株式会社
	プレミアファイナンシャルサービス株式会社
	大和ハウス工業株式会社
	株式会社エクセディ
	DMG 森精機株式会社
	株式会社ワイ・デー・ケー
	SMBC 日興証券株式会社
	京セラ株式会社
	三社電機株式会社

主催

京都大学東アジア経済研究センター

共催

東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点

東京大学ものづくり経営研究センター

後援

京都大学東アジア経済研究センター協力会

アジア自動車シンポジウム

黎明期のミャンマー自動車市場

—進出すべきか否か、その判断基準を考える—

■京都会場 2013 年 12 月 7 日(土) 13 時
京都大学百周年時計台記念館 2 階国際交流ホール

■東京会場 2013 年 12 月 9 日(月) 13 時
京都大学東京オフィス(品川インターシティA棟 27 階)

総合司会

13:00-13:10

挨拶 京都大学大学院経済学研究科長 植田和弘

13:10-13:40

ミャンマー自動車製造・販売協会会長

ミャンマー技術学会自動車技術部会専務理事

サクラグループ社長 ミャンマーモーター社長 テイン・アウン

ミャンマー自動車市場と今後の政策

13:40-14:30

京都大学大学院経済学研究科 教授 塩地 洋

日系企業から見たミャンマー自動車産業

14:30-15:00

鹿児島県立短期大学 講師

山本 肇

自動車産業—政策・発展史・今後の展望

15:10-15:40

事業創造大学院大学 教授

富山 栄子

輸入規制を受けている新車市場

15:40-16:10

住友商事 自動車リテールファイナンス事業部

木村 将裕

金融事情と販売金融現況

16:10-16:40

慶應大学経済学部 准教授

三嶋 恒平

オートバイ流通の実態

16:40-16:50

閉会挨拶

17:10-18:40

懇親会 参加費 2000 円 (協力会会員は無料)

司会 京都大学経済学部特任教授/東アジア経済研究センター協力会理事 宇野輝

開会挨拶 京都大学東アジア経済研究センター長/京都大学経済学部准教授 矢野剛

閉会挨拶 京都大学東アジア経済研究センター協力会長/京都大学経済学部名誉フェロー 大森経徳

参加の御申込は、塩地 shioji@econ.kyoto-u.ac.jp に会場名、氏名・所属、懇親会出欠を御連絡ください。
東京会場は定員 100 名、京都会場 300 名です。お早めにお申し込みください。

講演会のお知らせ

主催：京都大学東アジア経済研究センター

後援：京都大学東アジア経済研究センター協力会

『中国経済成長モデルとその転換への挑戦』 （“中国增长模式与转型挑战”）

講師 中国人民大学经济学院教授 陶 然

司会：矢野剛（京都大学経済学研究科准教授）

日時：2013 年 12 月 3 日（火） PM 4:30-6:00

場所：京都大学法経七番教室

使用言語：中国語—日本語 逐次通訳（同時通訳ではありません）

「中国経済研究会」のお知らせ

2013年度第6回（通算第38回）の中国経済研究会は下記の要領で開催することになりました。大勢の方のご参加をお待ちしております。

記

時 間：2013年12月17日（火）16:30—18:00

場 所：京都大学吉田キャンパス・法経済学部東館・地下1階みずほホール

報告者：鄭小平（立命館大学経済学部教授）

テーマ：「中国における地域格差の変化とその原因—戦後日本経済の経験を参考に—」

注：本研究会は原則として授業期間中の毎月第3火曜日に行います。2013年度における開催（予定）日は以下の通りです。

前期：4月23日（火）、5月21日（火）、~~6月18日（火）~~、7月23日（火）

後期：10月22日（火）、11月19日（火）、12月17（火）、1月21日（火）

カンボジア情報検証 : 2013年11月

29. NOV. 13

中小企業家同友会アジア情報センター代表
東アジアセンター外部研究員(協力会副会長)
小島正憲

1. SL 労働者騒動

《 既報 》 ※下記は前回送信済みの情報を簡略化し再録したものである。次段に検証済み《真相》を記す。

①ステミンチェイ地区の SL 社で暴動が発生、警官隊の発砲により女性1人が死亡

11/12朝、ステミンチェイ地区にある SL 社の工場の前で、労働者たちが道路の閉鎖を行ないストライキを行っていた。そこに警備員が割れたビンや石などを投げつけたため 10 人が怪我をした。軽傷を負った労働者は病院に運ばれたり、自分で手当をしたりしていたという。ストライキに参加していた Yin Vanna さん。Vanna さんの話によると、警備員に向けて石やビンを投げ返す労働者達もいたようだ。また SL に勤める Lim Chandara 氏は、「労働者達を被害者として見なすのは間違いであり、彼らこそが襲撃者である」と主張し、「彼らは嘘をついています、パチンコをつかって工場内に石を投げ込み、2 人の警備員を怪我させました」とも言う。この SL 社の労働者たちのストライキは3か月間以上続いており、それにより負傷者がでたのは2回目である。先月のストライキでは、工場の警備のために雇われた警察が参加者に向かって発砲し、一人が重傷を負っている。SL ガーメントの警備を担当するのはガルダ警備社だが、フン・セン首相の妹、フン・セン・ニー氏がオーナーだという。このため、SL ガーメント自体にフン・セン首相の家族が出資しているのでは、との噂もあるという。

11/12午前、SL 社の労働者たちは、フン・セン首相の自宅前に向けてデモ行進を計画しそれを実行しようとした。デモ行進は計画通りスタートし、ステミンチェイ地区のステミンチェイ橋付近で警官隊と衝突した。しばらく労働者と警官隊がにらみ合っていたが、工員の代表者などによる演説が行われ、大きな衝突もなく解散するかに見えた。しかしそこで突然、警官隊は放水車によるデモ隊鎮圧を開始したので、これに反発した一部のデモ隊参加者や地区住民の怒りがおさまらず、警察車輛を破壊し放火した。その後、態勢を整えた警官隊は、催涙弾、ゴム弾、そして実弾による暴動の鎮圧を開始した。数に勝る警官隊の反撃に、デモ隊は抵抗を続けることができず解散。ステミンチェイ寺や道路脇の商店に隠れたデモ隊は、警官隊に探し出され逮捕・連行された。この警官隊との衝突騒ぎで、デモ隊とは無関係の女性1人が警官隊の発砲で死亡し、数人が怪我をした。

このステミンチェイ地区では、国民議会選挙投票日にも、一部の住民による暴動が発生しており、SL ガーメント社のデモ隊とは別の不満が政府・行政に対して溜まっていた。今回の SL ガーメント社のデモ隊は、フン・セン首相の自宅前への行進を目的としており、警官隊と衝突



《SL 社前の道路封鎖状況》 《ステミンチェイ寺院内の弾痕跡》
することは、本来、彼らの目的ではない。暴動にどの程度、SL ガーメント社のデモ隊が関わっていたのかはわかっていない。

《 真相 》

- ・上記の情報は、ほぼ正しい。11/25現在、ステミンチェイ地区の SL 社前では、労働者がテントを張り、道路を完全に封鎖している。この状況がすでに3か月間、経過しているという。
- ・11/12朝、SL 社の労働者たちは、プノンペン市内のフン・セン首相前までデモ行進を行おうとしていた。SL 社からステミンチェイ橋までは徒歩で30分ほどかかる。ただしステミンチェイ橋を超えると市内に入り、フン・セン首相の自

宅までは近い。警官隊は、デモ隊をこの橋の前でどうしても止める必要があった。11/21にここでデモ隊と警官隊が衝突したが、周辺の露店や商店の破壊や略奪はまったく起こっておらず、「暴動」というより「騒動」という表現が正しい。

- ステミンチェイ地区は、かつてプノンペン市内のゴミ捨て場であったこともあり、今でもゴミが散乱し、異臭がただよい、周辺は環境がきわめて悪い。一種のスラム街のようになっており、一般住民にも政府に不満を抱いている人が多く、前回の選挙でも、この地区では野党が勝利した。今回のデモにこの地区の住民の多くが便乗参加していたことは事実であるという。ただしその人数は不明。
- このステミンチェイ地区には、大型縫製工場が密集しており、労働環境の悪い工場で大勢の労働者が働いている。
- 警官隊がデモ隊に発砲し、ステミンチェイ寺院前で、露店を営んでいた女性が流れ弾に当たって死亡した。デモ隊が橋のたもとでステミンチェイ寺院に逃げ込んだため、警官隊は寺院内になだれ込み、そこでも発砲し、警官隊の横暴から住民を助けようとする僧侶たちと衝突した。その僧侶の多くが拘束・連行された。寺院内の石碑には、そのときの弾痕跡が残っている。
- SL 社の労働者たちは、この3か月間、給料をもらっておらず、他の会社に臨時で勤めたりしているが、すでに限界に近いという。労働組合が介入し、解決のため交渉を繰り返しているが、いまだに妥結には至っていない。会社側はストライキをしている労働者に、その期間中の給料の半額を払う代わりに、労働組合を解散せよという条件を提示している。それに対し、労働者側は給料面の条件は呑むが、労働組合の解散要求は呑めない。また会社側に対して、会社の経営陣の一員であるカンボジア人管理者を辞めさせるように要求している。
- SL 社は中国系の企業で、6000人規模の巨大縫製工場である。GAP・リーバイス・H&M・ザラなど一流ブランドのジーンズを生産している。
- この企業の経営陣のカンボジア人管理者が、政府要人と密接な関係があり、そのカンボジア管理者のひごろの横暴な態度に SL 社の労働者が怒りを抱いているという。
- この SL 社から50mほど離れた所の道路際に、日本の縫製工場の看板が出ていたのでそこを訪ねてみると、道路から30mほど奥まった場所に立派な工場が建っていた。またその地域一帯は、そこがステミンチェイ地区とは思えないほど綺麗に整備されており、韓国系や中国系の縫製工場もあった。日系企業の門前で、写真を撮っていたら、かたわらで庭木の手入れをしていた労働者風の中年男性が、「なにか用事か」と聞いてきたので、「この日系の工場はいつごろから操業しているのか」と尋ねてみると、「1年前からだ。日本の下着の縫製工場だ」と言い、聞きもしないのに、「この工場はレンタルで、1㎡は月間1.5ドルだ」と言ってきた。不思議に思って、その男性の身分を聞いたところ、彼はこの一帯の地主であり、そこに建っている工場はすべて自分のものだという。そこには6工場があり、それぞれに3000㎡以上あるという。私が植木職人と間違えた男性は、大金持ちだったのである。私はびっくりして彼を見直したが、すぐ次の瞬間、「この地域一帯は30年前には、荒れ果て放棄され、その所有者が明確ではなかったわけであり、この男性はどのような方法でこの土地を手に入れたのだろうか」と思った。また SL 社の前でテントを張ってスト中の労働者たちと、この男性をダブらせ、カンボジアでも短期間で急激に貧富の格差が広がっていることを実感した。そんなことを考えながら、日系工場に掲げられていた日章旗や中国旗を見ていて、奇妙なことに気が付いた。中国旗が逆さまに掲揚されていたのである。私はすぐにその男性に、「中国の旗が逆さまですよ。国際問題になるかもしれないから、早く直した方がよいですよ」とアドバイスした。



2. Wing Star Shoes 社の中2階崩落事故

《既報》 ※下記は5月のカンボジア短信の再録である。次段に検証済み《真相》を記す。

1. 5/16、アシックス社の仕事を請負っている靴工場 Wing Star Shoes 社で、中2階崩落事故発生 2名死亡

Kampong Speu 州 Kong Pisei 地区にある靴工場において、工場の中2階が崩れ2人が死亡するという事件が起こった。警察官など数百人が迅速に集まって、瓦礫の中から被災者を助け出す作業を行った。事故が起こったのは Wing Star Shoes 社で、労働者たちがちょうど出勤し始めた朝の7時半頃に2階の床が崩れ落ちたようだ。Kampong Speu 州警察の Men Siborn 氏は、「これまでの情報では、労働者の2人が死亡し11人が負傷したとされています。11人のうち2人は病院で手当を受けすでに家に帰宅しております」と話した。Wing Star Shoes 社はカンボジア縫製業協

会に登録している会社で、日本の靴メーカー:アシックスの製品の生産を請負っていた。

《 真相 》

私はバングラデシュのビル崩壊の大惨事の後だけに、カンボジアのこの工場の天井崩落事故も、ビルの老朽化か、違法な増築を繰り返した結果だと思っていた。地元メディアの伝えるニュースは、その想像にぴったり合致するものであった。しかし実際には、この工場は、建築後1年を経っていない立派な工場であり、そこには8000人の労働者が勤務していた。敷地内は整然としており、とても天上崩落事故が起きたとは思えなかった。従業員さんに事情を聞いてみると、「崩落したのは、ビルの継ぎ目に当たるところで、本来、そこに荷物を積んではならないところだったが、出荷を控え徹夜作業をしており、翌朝までの予定で臨時に積んでいたものであり、まさに不注意だった。その後は、その部分は撤去された」と話してくれた。



この工場は、カンボジアでも最大級の工場であり、敷地は50ヘクタール。まだ拡大増築途中で、約2万人の工場にする予定だという。ただしここでも、この事故の1か月ほど前に、全従業員の賃上げストが起きたという。

3. またも工場で大規模集団失神

《 メディア報道 》

11/21、King First Industrial 工場にて大規模集団失神発生

11/21、カンダル州の King First Industrial 工場で、約 50 人の労働者が集団で失神する事件が発生した。この工場の Free Trade Union の代表である Khouth Touch 氏は、「女性工員の中に、その日の朝に腹痛や下痢を訴えていた子もいましたが、他の女子工員が倒れた光景を目にした工員がショックを受け、1人ずつ連続して倒れていきました」と話し、今後、労働省の担当部署によって詳細が調査されるはずであると伝えた。倒れた工員たちは近くの病院で治療を受け、他の工員は帰宅することを許された。会社の管理職の1人である Chea Houth 氏は、「工場内に悪臭はありませんでした。我々は労働者の朝食が問題ではないかと考えます。なぜなら彼らが工場に着いた時から問題はあったのですから」と話している。労働省からのコメントはまだ得られていない。

FTU によると、今年、カンボジア全土で、すでに 700 人以上の縫製工場労働者が失神していると言う。

《 真相 》

- この工場は中国系の縫製工場であり、すでに10年以上、現地で稼働しており、これまで大きな問題が起きたことはなかった。当工場は、11/16～19をカンボジアの水祭りのため4連休としていた。
- 11/20、工場管理者が連休明けのため、工場内で虫除けスプレーを大量にまき散らしたので、女子工員が気分を悪くする事態が発生した。同時に連休中に故郷に帰ったり、遠出したりして、体調管理が不十分なまま出勤してきた女子工員もいたようである。
- 11/21朝、腹痛や下痢、嘔吐などの体調不良を訴える女子工員がいて、それを見ていた他の女子工員20名ほどが、気分を悪くして連鎖的に倒れ、病院に運ばれた。会社側は工場の操業をやめ、残っていた女子工員を帰宅させた。
- 11/22昼、会社側は、前日の不吉な事件のお祓いをするため、近所から僧侶を招き、全工員を集め、魔除けや靈魂を鎮める祈祷会を催した。僧侶が30分ほど読経していると、そのうち一人の女性が突然立ち上がり、わけのわからないことを言い倒れた。それを見ていた女子工員たちが、また次々と倒れ、病院に運ばれていった。その数は50人を超えたという。
- 11/23、この日もまた、20人ほどの女子工員が失神した。
- 近所に住む老人は私に、「この工場一帯は、ロン・ノル軍とポル・ポト軍の激戦の地で、当時は死体のごろごろしていた。またその後のポル・ポト時代に虐殺された住民が、この地に大量に埋められている。彼らの霊を鎮めるために、ここに塚が建てられており、村民がいつもそこで祈りを捧げていた。10年ほど前、中国人が来て、塚を壊し、工場を建設した。今、起きている原因不明の女子工員の失神は、塚を壊した祟り(たたり)ではないか」と話してくれた。



《 私見 》

今回の失神事件も、①カンボジア労働者の栄養不足、②カンボジア労働者の自己管理不足、③工場管理者の不注意、④カンボジア労働者の情緒不安定、などの要因が複雑に絡みあって起きたものであろう。バングラデシュやミャンマーも、①・②・③の状況はほぼ同じであるが、大量集団失神はまったく起きていない。労働者の大量集団失神という事態は、カンボジア固有のものである。つまりカンボジア固有の④の要素が付け加わることによって、生じる現象であり、それはポル・ポト後遺症であると考えることが妥当である。労働組合幹部は、すでに700名も発生している失神者対策を、労働環境の改善にのみ求めるのではなく、より深い洞察による心理的・科学的改善に踏み込む必要があると思う。

4. 故ノルドム・シハヌーク前国王の銅像が完成

10/15の朝に行われた式典のなかで、ノルドム・シハモニ国王と与党の代表者達が、完成したばかりの故シハヌーク王の銅像に花を捧げた。この銅像は、1年前にこの世を去ったシハヌーク国王のために作られたものだ。独立記念塔の、ちょうど西側に建てられている。

シハヌーク像は、両手をお腹の上で組んでおり、穏やかな像である。手を斜め上に突き出し、民衆を統治する姿勢を顕示している毛沢東像などとは、明らかに違う。これもシハヌーク前国王の人柄を偲ばせるものであろう。なお、私の後方に見えるのが、独立記念塔である。



以上

上海街角インタビュー ⑧

社団法人大阪能率協会アジア・中国事業支援室副室長（海外委員）

順利包装集团董事长（在上海）

福喜多技術士事務所所長

福喜多俊夫

「中国人は映画が好き」

10月5日付の日経新聞に「映画市場 中国世界一に、2020年には米国を抜く」という記事が掲載された。確かに最近、上海でも3D映画が盛んに上映されている。

“中国人は映画が好きか？” 上海で聞いてみた。

1. 20歳後半の女性 南京西路のオフィス勤務

映画館に行くのは年に5～6回だけど、テレビやiPadではよく見ます。見るのは人気のあるコメディ、恋愛映画、ファミリー映画です。3Dアクション映画は必ず映画館へ見に行きます。迫力が全然違うから。私の両親は映画に関心がないです。映画好きな友達に年に10回以上見に行っていると思う。

中国人全部が映画好きかどうか分からないけれど、私達の年代は映画好きだと思う。カラオケか食事以外に特別な娯楽がないから、映画見物は重要な娯楽活動です。

2. 40歳前半の男性 宗園路のオフィス勤務

私は日本人並の仕事人間だと思っているので年10回程度しか映画館で映画は見ません。しかし、PS3に搭載されたBlue Ray機能をたつぷりと利用し、映画DVDを年間50枚以上買っている。一度映画館で見た映画にしても、またDVDを買ってゆっくりと見るケースもある。TVとiPadでも映画は良く見えています。映画館へは中学生の娘と行きます。

10年前位の時期は、映画館は大赤字だったが（皆、家で海賊版のDVDとか見ていた）、最近の映画館は3D、Imaxなど進化しているため、面白い映画は必ず映画館で見る習慣が中国人の一般家庭に浸透してきていると思います。

3. 20歳後半の女性 虹橋路のオフィス勤務

映画館には平均して月1回は行きます。以前はPCにダウンロードして映画を見ていたけれど、最近は映画館で見るのが好きになりました。映画館へはそのときの映画によって家族全員（主人、子供、主人の両親や私の両親）と行ったり主人と行きます。1人で行くことはまずありません。30～40歳代の多くは家族の時間を映画館で過ごします。

中国人は映画が好きかと聞かれたら、それは年齢、教育、その他の生活背景によると思う。中国は人口が多いので、行楽地は人が多く家族で行くのは危険なときがある。映画館はもっとも手軽な時間つぶしの場所だと思う。また、カップルにとっても格好のデート場所だ。でも、彼、彼女達が本当に映画が好きかどうかはわからない。

4. 40 歳半ばの女性 浦東新区外高橋保税区製造業勤務

私はそれほど映画好きではないけれど、中国人が映画好きかと問われたら、イエスと答えたい。うちの事務所の女性スタッフは新しい映画が封切られるたびに映画館に足を運んでいる。彼女は結婚前は友達と、結婚後はダンナさんと一緒に行っている。社用車の運転手も少なくとも月 1 回は行っているようだ。

5. 40 歳半ばの女性 虹梅路のレストランで

映画館へは子供が見たがるアニメ映画を見に行くくらい。年 5～6 回かな。でも、映画は iPad で毎日見ている。私は専業主婦よ。

6. 50 歳代の男性 虹梅路のレストランで (民間企業管理部勤務)

映画館というと、若い人はよく行きますが私はあまり行きません。せいぜい年間 1～2 回くらい。話題となった映画が放映される時だけ行きます。料金が安い (50～100 元) ことに加えて、映画に対する興味もあまりないです。妻も殆ど見に行きません。

テレビや iPad で映画を見ることはありません (iPad は持っていません)。周りの人は iPad で映画を見ているようですが、私は時代遅れかもしれませんね。

中国人は一般的に映画が好きかと聞かれれば、若い人は映画に興味があると言えるでしょう。たまに映画館へ行っても若い人ばかりです。映画館も昔に比べてサービスがよくなり、最近ではひとつの映画館で 8 つのホールがあり、それぞれ 30 分ずらして放映しているので、いつ行っても 30 分待たなくても見れるようになっているのも人気が高まっている理由かもしれません。

上海人の話を総合すれば、中国人、特に 40 歳代より若い層は映画好きで、特に 3D 映画が若年層を惹きつけているように見える。

中国では 2006 年頃から 3D 映画が普及してきたが、2007 年段階では 3D スクリーンを備えた映画館は全国に 82 カ所しかなかった。現在では全スクリーンの 77% が 3D 化されているという。因みに中国では 2012 年末段階で 1 万 3100 スクリーンがあり、そのうち 4000 スクリーンが 2012 年に新設されたという。3D 映画では興業収入ですでに米国を抜き去り、8 月に封切られた「ジェラシックパーク」3D バージョンは 20 日間で約 55 億円の興行成績を上げた。

上海は昔から映画の街で、上海の映画撮影の歴史を伝える「上海電影博物館」が 2013 年 6 月 16 日に上海市徐匯区漕溪北路に完成した。上海国際映画祭が毎年 6 月に開催されており、この期間に合わせて上海・日本映画週間も開催されている。

【中国経済最新統計】

	① 実質 GDP 増加率 (%)	② 工業付加価値増加率 (%)	③ 消費財小売総額増加率 (%)	④ 消費者物価指数上昇率 (%)	⑤ 都市固定資産投資増加率 (%)	⑥ 貿易収支 (億ドル)	⑦ 輸出増加率 (%)	⑧ 輸入増加率 (%)	⑨ 外国直接投資件数の増加率 (%)	⑩ 外国直接投資金額増加率 (%)	⑪ 貨幣供給量増加率 M2 (%)	⑫ 人民元貸出増加率 (%)
2005 年	10.4		12.9	1.8	27.2	1020	28.4	17.6	0.8	▲0.5	17.6	9.3
2006 年	11.6		13.7	1.5	24.3	1775	27.2	19.9	▲5.7	4.5	15.7	15.7
2007 年	13.0	18.5	16.8	4.8	25.8	2618	25.7	20.8	▲8.7	18.7	16.7	16.1
2008 年	9.0	12.9	21.6	5.9	26.1	2955	17.2	18.5	▲27.4	23.6	17.8	15.9
2009 年	9.1	11.0	15.5	1.9	31.0	1961	▲15.9	▲11.3	▲14.9	▲16.9	27.6	31.7
2010 年	10.3	15.7	18.4	3.3	24.5	1831	31.3	38.7	16.9	17.4	19.7	19.8
2011 年	9.2					1549	20.3	24.9				
10 月		13.2	17.2	5.5	34.1	170	15.8	29.1	-0.6	8.7	16.7	14.1
11 月		12.4	17.3	4.2	21.4	145	13.8	22.6	-12.9	-9.8	16.2	14.0
12 月	8.9	12.8	18.1	4.1	5.7	165	13.3	12.1	-15.4	-12.7	17.3	14.3
2012 年						2303	7.9	4.3				
1 月				4.5	25.3	273	-0.5	-15.0	4.6	10.8	16.6	14.8
2 月		21.3		3.2	—	-315	18.3	40.3	38.7	-0.9	17.8	15.0
3 月	8.1	11.9	15.2	3.6	21.1	53	8.8	5.4	-6.5	-6.1	18.1	15.7

4月		9.3	14.1	3.4	19.2	184	4.9	0.4	-26.1	-0.7	17.5	15.4
5月		9.6	13.8	3.0	21.0	187	15.3	12.7	-6.1	0.0	17.9	15.7
6月	7.6	9.5	13.7	2.2	21.8	317	11.3	6.3	-16.3	-6.9	18.5	16.0
7月		9.2	13.1	1.8	20.6	251	1.0	5.7	-7.8	-8.6	18.9	16.0
8月		8.9	13.2	2.0	19.4	267	2.7	-2.7	-12.7	-1.4	18.4	16.1
9月	7.4	9.2	14.2	1.9	23.1	277	9.8	2.3	-6.4	-6.8	19.8	16.2
10月		9.6	14.5	1.7	22.4	320	11.5	2.2	1.8	-0.2	14.6	15.9
11月		10.1	14.9	2.0	20.0	196	2.8	-0.1	-8.7	-5.4	14.5	15.7
12月	7.9	10.3	15.2	2.5	18.8	316	14.0	6.0	-7.8	-4.5	14.4	15.0
2013年												
1月				2.0	20.8	291	25.0	29.0	-12.4	-3.4	15.9	15.4
2月				3.2		153	21.7	-14.9	-35.6	6.3	15.2	15.1
3月	7.7	8.9	12.6	2.1	21.5	-9	10.0	14.2	-19.7	5.7	15.7	14.9
4月		9.3	12.8	2.4	19.8	182	14.6	16.6	13.9	0.4	16.1	14.9
5月		9.2	12.9	2.1	19.7	204	0.9	-0.1	-14.4	0.3	15.8	14.5
6月	7.5	8.9	13.3	2.7	19.9	271	-3.3	-0.9	-17.3	20.1	14.0	14.1
7月		9.7	13.2	2.7	20.2	178	5.1	10.8	1.2	24.1	14.5	14.3
8月		10.4	13.4	2.6	21.4	285	7.1	7.1	-11.7	0.6	14.7	14.1
9月	7.8	10.2	13.3	3.1	19.6	152	-0.4	7.4	-16.8	4.9	14.2	14.3
10月		10.3	13.3	3.2	19.2	311	5.6	7.5	-8.2	1.2	14.3	14.1

注：1. ①「実質 GDP 増加率」は前年同期（四半期）比、その他の増加率はいずれも前年同月比である。
2. 中国では、旧正月休みは年によって月が変わるため、1月と2月の前年同月比は比較できない場合があるので注意されたい。また、（ ）内の数字は1月から当該月までの合計の前年同期に対する増加率を示している。
3. ③「消費財小売総額」は中国における「社会消費財小売総額」、④「消費者物価指数」は「住民消費価格指数」に対応している。⑤「都市固定資産投資」は全国総投資額の86%（2007年）を占めている。⑥—⑧はいずれもモノの貿易である。⑨と⑩は実施ベースである。

出所：①—⑤は国家统计局統計、⑥⑦⑧は海関統計、⑨⑩は商務部統計、⑪⑫は中国人民銀行統計による。